

ふるさととは母 ふるさととは命



福祉も暮らしもたいへんな時です。区民の皆さんの願いは大きくても小さくても行政に反映させます。

私のホームページ『小さな町の幸せ通信』のトップ写真、今年は大乗寺から見た尾神岳の風景です。

いよいよ2008年になりました。年末に父が緊急入院したため、新しい年は病院で迎えました。昨年七月の中越沖地震で吉川区も大きな被害をこうむりましたが、今年は早く復興させ、災害に強いまちづくりをしていかなければなりません。新年は、何よりも災害のない年にしたいものです。

昨年は、長年続いてきた自民党政治が国民との矛盾を深め行き詰まったことがはっきりした年でした。そして国政は、昨年の参院選後、大きく変わりました。国民の厳しい審判の結果、主権者である国民の運動によって政治が変わりうる時代を迎えています。被災者生活再建支援法の改正で初めて住宅本体への支援が盛り込まれたり、後期高齢者医療制度の見直されたことはそれらの現れです。

さて上越市ですが、昨年の12月議会で第5次総合計画基本構想が改定され、新市の将来都市像は「海に山に大地に 学びと出会いが織りなす 共生・創造都市上越」と決まりました。合併時の約束事である新市建設計画の将来都市像も生きていくとの説明でしたが、編入された側としては、13区が大事にされるかどうか注視していかねければなりません。同計画の資料編では、財政計画の見直し案が示され、地域事業費は約2割もカットされようとしています。財政危機が叫ばれ、国民健康保険税など住民負担が一層強化される動きも出ています。

こうしたなか、昨年は議会報告会やアンケート活動を通じて皆さんの声をお聞きしてきました。まだまだ不十分な点もありますが、皆さんからお寄せいただいた願いや要求は、どんなに小さくても行政に反映させてまいります。

2008年は解散・総選挙が予想される年です。そして4月には市議選も行われます。

私は吉川区を代表するただ一人の議員として、市議会では党派を超えた連携を重視しながら、皆さんの暮らしを守るために全力でがんばります。いっそうのご支援をお願いいたします。

上越市議

橋爪 法一



NO 1328
2008.1.6

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪法一
TEL 548-3628 (有線) 4867
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL <http://www.hose1.jp/>

春よ来い 第九〇回 父の挨拶

母から緊急連絡が入ったのは二七日の夕方でした。「とちや、じちやの様子がおかしいすけ、見てくれ」そういう母の口調には落ち着きがあったので、パソコンのスイッチを切ってから父のベッドへと急ぎました。「大丈夫か」と声をかけると、父はうなづきます。でも、その動きにはいかにも具合が悪いといった鈍さがありました。父は前日から痰が詰まりがちでした。この日も痰の切れが一段と悪くなっていました。医療のことで困るといつも相談するFさんや従姉から「このまま家で様子を見るにしても限度がある」とアドバイスもらい、かかりつけの医院に何度も連絡しましたが、何かあったのでしょうか、連絡はとれませんでした。それで救急車を呼ぶことにしました。

救急車で父を病院に運んでもらったのは二五年ぶりのことです。前回は牛舎管理棟で大量の吐血をし、その血を見ただけで大慌てしましたが、今回も、あまり落ち着いてはいられませんでした。Fさんから、「肺炎を起こしている可能性がある。油断できない」と聞いていたからです。

病院での診察の結果は、やはり肺炎でした。レントゲンでは片方の肺は真っ白で、いまひとつの方も白い点はかなり広がっていました。担当医からは、「最悪の場合、明日の朝まで持たないかもしれません。いざという時に心臓マッサージ、人工呼吸器はどうされますか」とまで言われました。私は弟たちや父のキョウダイなどに連絡を取り、診断結果を伝えました。

大潟区に住む弟、わが家の子どもたち、大島区の従兄弟などが心配して病院まで駆けつけてくれました。彼らが病院を離れ、病室で父と私たち夫婦だけになったのは夜中の一時近くでした。それからの時間が長かった。担当医から直接聞いた、「最悪の場合……」という言葉が頭からずつと離れず、時間の流れが気になりました。デジタル時計の数字を何回見たことか。

病室から外へ目を向けると、謙信大橋に至る道が見えます。午前二時過ぎから通り過ぎる車がガクンと減りました。たまに通る車のライトをうれしく感じるのはなぜでしょう、ライトの流れを追い求めるようになりました。冬場で夜明けが遅いこともあって、車が徐々に増えてくるのは午前六時過ぎでした。

医者に何時までと言われたわけではないのに、六時を過ぎたら何となくホッとしました。父がひと山越えたと思えたからです。ベッドを見ると、父は相変わらず薄眼を開けて私の顔を見えています。時たま、口をあげて何かを言っていたのですが、入れ歯をはずしているため、何を言おうとしているのかさっぱりわかりませんでした。

入院後一週間。父の病状は回復基調にあるものの、熱が上がったり下がったりするなど一進一退が続いています。しゃべる言葉がほとんどわからないのも同じで、わかるのは「おい」とか、「ばちや」ぐらいなもの。ただ、こちらからの問いかけには、うなづいたり、首を振ったりして意思表示してくれました。

そんな父も最近、自分で意思表示する新たな方法を考え出しました。「いやだ」という時には両方の手を出して×(バツ)を作ります。「ありがとう。さよなら」の挨拶では、グローブのような白い手袋をはめたまま、右手を斜めに持ち上げます。父が一番大好きな孫たちが付き添ってくれたときは、特別うれしいのでしょうか、感謝の意味を込めて、右手をサツと上げています。じいちゃん、がんばれ。

中小企業振興基本条例が必要です 吉川商工会新年懇談会で訴え

吉川商工会の恒例の新年懇談会が4日、たつみ屋で行われました。同懇談会は合併して新上越市ができたあと、吉川区で様々な分野で仕事をしている人たちが参加する新年会として定着しています。今年は40人ほどの人が参加して親睦、交流を深めました。

私も4年連続して参加させていただきました。また、今年も年頭の挨拶をさせてもらいました。今年は14市町村が合併して4年目となります。新年の課題の1つである新市建設計画の地域事業の推進と中小企業振興策についてふれました。

このうち、中小企業振興については、総務省の「事業所・企業統計調査」の上越市分のデータを紹介。平成13年から18年までの5年間に事業所数が900も減って11011になり、それに伴い、従業員数も吉川区の人口に匹敵する5397人減ったことを明らかにしました。また総合計画策定のために市がとったアンケートでは、魅力ある都市にするために必要な整備は何かと問われ、回答のトップになったのは「工場や事務所など就労の場」、次いで第2位は「既存商店街の活性化」、そして第3位は福祉施設だったことも紹介し、元気の出るまちづくりには中小企業の振興が欠かせない、そのためにも既存の企業振興条例では不十分、燕市などのように総合的な内容を盛り込んだ中小企業振興基本条例の制定が必要だと訴えました。

特別養護老人ホーム入所待機者1100人突破

特別養護老人ホームは、施設の新設もあり減ったかと思っていれば、逆に増えて1100人を超えています。まだまだ不足していますね。

特養待機者数(平成19年8月1日現在)

区名	待機者数
安塚	35
浦川原	37
大島	23
牧	20
柿崎	88
大潟	79
頸城	53
吉川	40
中郷	19
板倉	36
清里	22
三和	33
名立	13
13区計	498
旧上越市	622
総数	1,120